

# ひろば

みんながつくる楽しいページです。  
お気軽に投稿してください。



ガーデニング

## 「奥様の野菜畑…NO.3」

前回に引き続き「奥様の野菜畑」をご紹介します。これは、紙面が限られていますので、ホームページの一部です。本当はまだ面白。

晴耕雨読と鼻歌を歌っている奥様は気楽なものです。

・畑の眩き・

おいおい・いいのかい、こんな狭い畑にこんなにたくさん植えてしまってこれだから素人はいやだよな。植えればいって言うものではないんだぞ。この奥さんはずいぶんと欲張りだな。まあ素人だからしょうがないやね。どれだけ期待に答えられるかわからないけど、私なりに協力してあげよう。ダメだ！・だめだよ、種を蒔いてそのままにしていたら、電線の上にハトが、竹やぶの中でカラスがほ～ら（カア～カア～）と鳴いてるぞ。奥さんが帰ったらすぐに種を食べにやってくるぞ。ほ～ら、見たこっちゃない、ハトが豆食ってるぞ。梅雨も明けたというのに、奥様は何をしているのかな？ せっかく立派に育ったキュウリは地べたに這ってしまっ

るし、ナスビは水不足で葉っぱはレースの様に穴があいてしまったな。農薬を使わないのなら害虫を取りに来てほしいよな。枝豆にはカメ虫がいっぱい着いているし、トマトは伸び放題、もっと丈夫な支柱をしないと……あ～まったく、イライラするな。

・奥様・

毎日暑い日が続くので、畑の土は白く乾燥し、野菜がSOSを発信しているの、奥様は畑の水やりで精を出しています。畑の回りには水が無いのです。それぞれの畑には大きなポリバケツがいくつも置いてあり、雨水を貯めているのです。バケツいっぱい水を両手にかかえてフラフラ、ヨロヨロしながら家から畑まで何往復も水運びをしています。

己斐・チェリー

……以下省略。続きはホームページで。

<http://www.west.21.gr.jp/>



レース状の葉になったナスビ



カラスに食べられたトウモロコシ



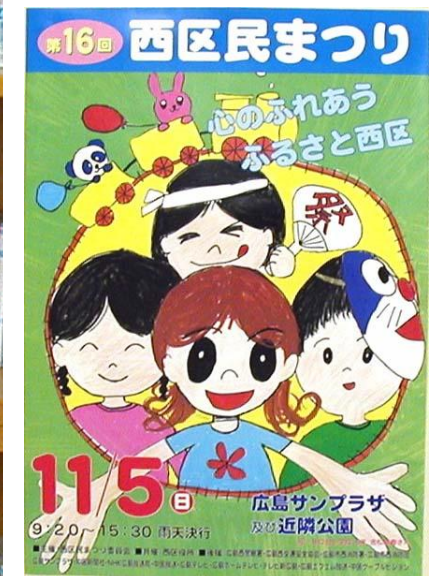
真っ赤な完熟トマト



容姿は悪いけど新鮮キュウリ



## 第16回西区民まつりポスター



## 原画は吉松晴香さん（井口台小6年）の作品

11月5日（日）、広島サンプラザと近隣の公園で開催する西区民まつりは、区民みんなが参加する手づくりのまつりです。昨年からのポスターの原画を子ども達から募集しています。今回、142点の応募の中から採用されたのは、真中の少女が両手を広げて、『みんなで来てよ』と誘っている井口台小学校6年の吉松晴香さんの作品に決まりました。作品は、ポスターのほかチラシとパンフレットに使用します。

吉松さんは、お父さんは行けない時がある

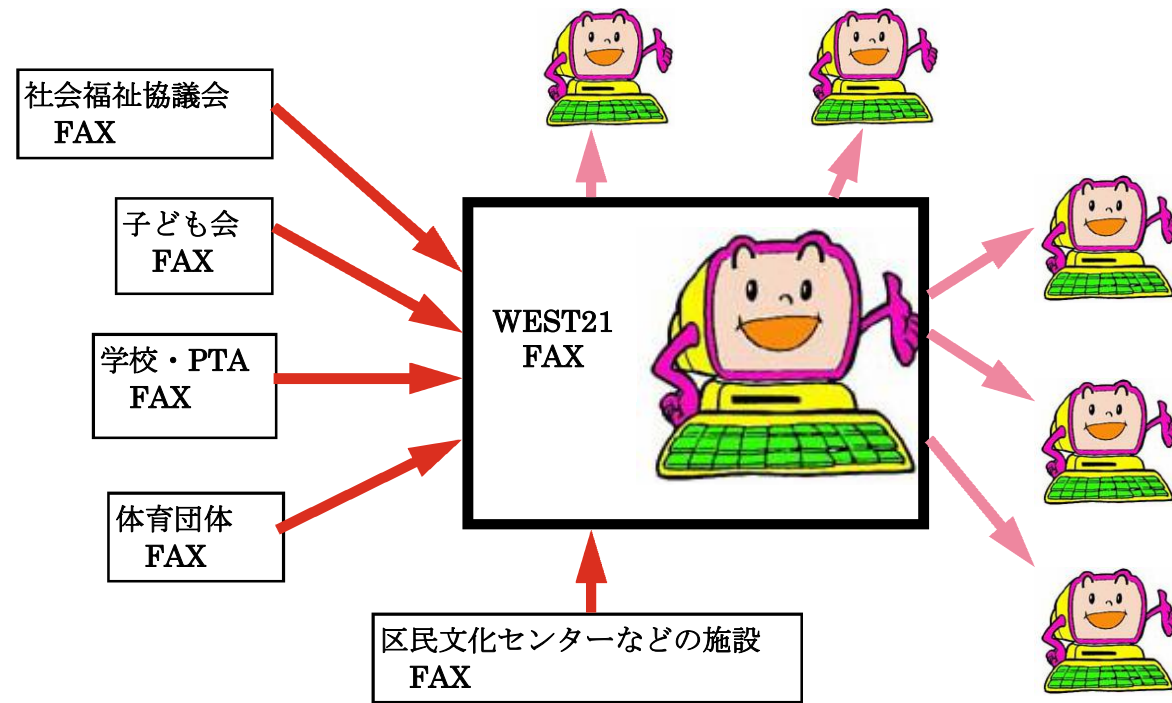
けれど、毎年のように家族で区民まつりに行っているそうです。「区民まつりはお店やミニSLやいろいろなものがあってとても楽しい。」

選ばれた感想について「ほかにもいい作品があったと思うのに、自信はありませんでした。選ばれるなんて、恥ずかしい」とこたえました。

吉松さんら井口台児童館の仲間は、区民まつりと併催される西区こどもまつりで、テアプサート『うぬぼれねずみ』を演じます。



## チラシなどがそのままホームページに



## 地域情報をFAXでWEST21につな

5月1日に西区コミュニティ交流協議会によるホームページ「WEST21」を開設して4ヶ月が経過しました。これまでにこのホームページを開いた人は、8月31日までに2000人を超えました。今回、さらに内容を充実させるため、インターネット・ファックスを導入しました。

### 地域活動を広く広報

インターネット・ファックスを使うと、コミュニティ団体が広報用に作ったチラシなどがそのままホームページに掲載されます。例えば、町内会の運動会や子ども会・体育団体の行事などを多くの人に知らせることができます。

8月30日には、西区スポーツセンターなど区内の公共施設の担当者を対象に説明会を開催しました。実際にチラシをファクシミリで送信し、パソコン画面に表示された文字の状態などを確認しました。これにより、WEST21トップページの「催し案内」をクリックすれば、各施設から送信された内容を見ることができるようになりました。



8月30日西区役所で、  
公民館など公共施設の担当者  
を対象に開始した説明会

インターネット・ファックスとは  
公民館など区内の各施設からファクシミリを使い、  
チラシなどをWEST21のファクシミリへ送信すれば、  
それがそのままホームページの画面になります。  
パソコンのキーボードを打ってホームページを作る  
必要がなく大変便利です。



ふるさと歴史発見

## ひろしま漫歩



## 太田川の中洲

北大橋上流にて

広島市広報広聴課・公文書館の協力により、これまで広報紙「広島市民と市政」に掲載された“ひろしま漫歩”の中から西区内の記事をホームページにしています。

基町高層住宅の北側、北大橋の上流に”無人島”がある。人工美の中の小さな自然だ。その姿は、デルタ広島の原初をしのばせてくれる。

デルタが形成され始めたのは、およそ4300年前からといわれている。現在の都心部にあたる地域が海上に姿を見せ始めたころ、中洲はいくつもあったに違いない。

九州探題、今川了俊の紀行「道ゆきぶり」に、広島デルタを歩いて渡った最初の記録を見ることが出来る。時に、1371年9月19日。今から六百余年前のことだ。古代より山陽道は、海田から山手に入っていたが、このころ旅行く者は、多く潮干の道を通っていたのだろう。

大正のころ、中洲は野球ができるほど広

かった。花見時の中洲は、楠木側、長寿園側兩岸の桜を見渡せる一等地であった。いつもは中洲の川砂を採っている川舟が、この時ばかりは臨時の渡し舟となった。

歌人、近藤芳美は、旧制広島高校の生徒だったころ、町中からボートでこぎ上がっては中洲の砂の上に寝ころび、文学と人生を日没まで友と語合ったという。

4300年かかって広島デルタが形づくられる中で、この中洲は、ビルが林立する所とは、ついに成り得なかった。そのことが、辺りをのびやかな空間につくりあげている。

中洲は、四季折々にそれぞれの表情を見せて、人々の心を和ませる。

広島市民と市政 昭和60年9月1日

(広島市公文書館)